

台湾における低出産・高齢化と政策的対応に関する資料収集

厚生労働科学研究費による研究事業「東アジア低出生力国における人口高齢化の展望と対策に関する国際比較研究」の一環として、筆者が11月24日～28日にかけて台湾に滞在し、資料収集と専門家との面談等を行った。面談した専門家は、楊文山博士および鄭雁馨博士（中央研究院社会学研究所）、范毅軍博士（同院歴史語言研究所）、林季平博士（同院人文社会科学研究中心）、蔡明璋教授（国立台北大学）、鄭保志教授（国立中央大学）、陳玉華教授（国立台湾大学）らである。いずれも台湾の出生力低下および人口高齢化と関連する社会・政治・経済・文化的変動について、高度に専門的な意見を聴取できた。また国立台北大学では、筆者が“Low Fertility and Population Aging in Eastern Asia”と題してプロジェクトのこれまでの成果を報告し、有意義な議論を行うことができた。

（鈴木 透 記）

OECD 移民専門家年次会合（SOPEMI）

OECD 移民専門家会合（SOPEMI）は、経済協力開発機構（OECD）雇用労働社会問題委員会（Employment, Labour and Social Affairs Committee）の下に、OECD 加盟国の移民政策や移民の実情に関する情報・意見を共有し、移民に関する様々な問題について専門家による討論を行うことを目的として1973年に設置されたものであり、毎年11月頃に開催されている。本年は、11月27-29日の日程でOECD本部のあるフランス・パリにて開催されたところ、当研究所からは、厚生労働省からの依頼を受け、人口動向部より是川が参加し、各国の代表と意見交換を行ってきた。

会合では、移民分野における最近の活動と今後の予定、労働移民の流れと政策に関する近年の動向、家族移民、人道的移民の流れと政策に関する近年の動向、出国移民に関する近年の動向、移民に関するデータ収集と専門家ネットワークの役割の強化について、非正規移民、移民の不法就労と合法化プログラムについて、移民に対する統合政策について、語学トレーニングについて、帰化／反差別政策について、及び、医療介護の専門家の国際的移動に関する特別セッションが行われた。

本会合は原則ノンペーパーで専門家同士の活発な議論が期待されているところ、当方からも、国際的にあまり知られていないわが国における移民の社会的統合の状況などについて、積極的に発言を行い、高い関心を得た。今後も、このような形での情報交換が期待される。

（是川 夕 記）

【訂正】

『人口問題研究』69巻4号掲載の「国立社会保障・人口問題研究所における「社会保障・人口問題基本調査」二次利用の方法」pp.124-127に誤りがありましたので訂正いたします。

（誤）

（正）

p.126 別表中、第1列15行目 1992.6（第14回） 2010.6（第14回）